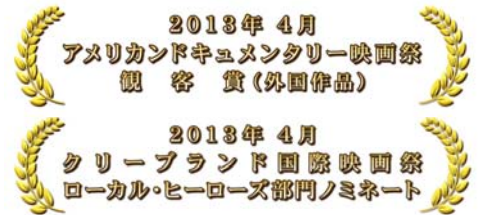


長編ドキュメンタリー映画

Do You Know What My Name Is ?



■ 2013 年 4 月、アメリカンドキュメンタリー映画祭(米国カリフォルニア州)で最高賞にあたる「観客賞(外国作品)」を受賞！

仙台放送が東北大学加齢医学研究所・川島隆太教授の認知症改善プログラムの海外初の実証研究取材した長編ドキュメンタリー映画「Do You Know What My Name Is?(ドゥー・ユー・ノー・ホワット・マイ・ネーム・イズ)」が、アメリカ・パームスプリングス(カリフォルニア州)で開かれていた「アメリカンドキュメンタリー映画祭」で、現地時間の4月8日(日本時間の9日)、同映画祭の最高賞にあたる「観客賞(外国作品)」を受賞しました。同映画祭では、約1500の選考作品の中から選ばれた113作品が上映され、今回はアメリカ国内の作品1点と、外国作品2点の計3点が受賞しました。同映画祭で日本の映画が受賞するのは、初めてのことです。

※アメリカンドキュメンタリー映画祭(4月4日～8日開催のアメリカ西海岸で最大のドキュメンタリー映画祭)
<http://americandocumentaryfilmfestival.com/>

仙台放送は、かねてより「脳トレ」で知られている東北大学加齢医学研究所・川島隆太教授監修の番組「いきいき脳体操」を制作・放送しており、川島教授の脳科学の研究成果から生まれた認知症の症状改善プログラムの海外初の実証研究を長期間取材していました。



■ あらすじ

“Do you know what my name is ? (=僕の名前を知っていますか?)” こう尋ねるのが僕の日課になったのは1年前。相手は僕の3倍もの人生を生きるおじいちゃん、おばあちゃんたちだ。僕の名前はジョン。アメリカ・クリーブランドの高齢者介護施設で働いている。施設で暮らす高齢者の平均年齢は80歳。彼らの多くは認知症を患いながら静かな余生を過ごしている。でもこの1年、みんなが挑戦してきたものがある。それが日本の脳科学者・川島隆太教授が開発した認知症改善を目指す取り組みだ。エブリン(94)は、認知症と診断されて2年。当初は自分の名前も書けず、会話も噛み合わなかったが、4カ月後、趣味の編み物を始めるようになった。笑って、ジョークをとぼし、おしゃれを楽しみ、時には恋愛のアドバイスもくれる。皆、出会った時よりも、美しく、そして、元気に変わってきた。アルツハイマーという名の病が人類社会に登場して1世紀。未だ特効薬もないこの病に、人々は記憶の空白に戸惑わされ、生きる気力さえも奪われてきた。そんな病と闘う人間にとって「幸せな最期」とは何なのだろうか？果たして僕は、みんなが天に召されるとき、自分自身を取り戻した笑顔を見ることができるのだろうか――

監督:風間直美/太田 茂
プロデューサー:太田 茂
脚本:武田浩/ロジャー・パルバース
技術協力:コスモスペース・オブ・アメリカ
制作協力:共同テレビジョン
制作・著作・配給:仙台放送
2012年/83分/HD/16:9/カラー/日本/ドキュメンタリー
公式HP (<http://doyouknow.jp>)



■ お問い合わせ

仙台放送 (広報部 佐藤)
(企画制作部 澤田・太田)

[Tel:022-267-1240](tel:022-267-1240)
[Tel:022-267-1297](tel:022-267-1297)

全 ての人々に 観ていただきたい映画です

東北大学加齢医学研究所
スマート・エイジング国際共同研究センター長

川島隆太教授



この映画は、私たちが日本で開発した認知症の患者様の認知機能を持ち上げることができる認知介入療法『学習療法』の効果を、初めて海外で検証したドキュメンタリーです。私たちは「読み・書き・計算」を使って、認知症の高齢者の方々の認知機能が上がり、生活機能が改善できることを日本で証明してきました。しかし、この効果が、日本人だけのものなのか、世界中の人々に使えるものなのかについては疑問が残っていました。そこで今回は、米国の施設にご協力いただいて、教材を英語化し、アメリカ人にも同じ効果があるかどうかを検証するトライアルを行いました。その中で、アルツハイマー型認知症の方々を1年以上取材していただきました。映画をご覧いただければ分かりますが、激的な変化が起こります。日本から出たオリジナルの方法が、認知症の患者様との関わり方によっては、世界中の認知症の患者様とそのご家族に幸せを届けることができる、と自信を深めることができました。

今回驚いたことは、コミュニケーションの方法が、アメリカ人のほうが、日本人よりも上手かも知れないということです。これはサポーターの方々が非常に上手に関わってくださっていたこともあると思います。また患者様の認知機能の改善度合いも、日本よりも少し強いかもしれないというイメージを持ちました。現在、解析を行っていますが、もしかすると遺伝子多型と呼ばれる遺伝子の状態の違いが影響しているのかもしれない。

アルツハイマー型認知症は、「いずれは死にいたる病」というのが、世界的な認識です。しかし、今回のトライアルで、たとえアルツハイマー型認知症になっても、きちんとケアをすれば、良くなる可能性があるのだ、ということを多くの方々に知っていただけたのではないかと思います。

この映画は、アルツハイマー型認知症で苦しんでいらっしゃる患者様、ご家族の皆様、ご支援いただいている皆様だけでなく、全ての人々に観ていただきたいと考えています。映画の中の登場人物の顔の表情、着ている服装や髪型の変化にも注目して下さい。人としての生活がどんどんよみがえってくるということを、この映画を通して感じていただけたと思います。